



明日を信じて

新潟市立潟東小学校 平成30年12月20日発行 第9号
「明日（あす）を信じて」は校歌のサブタイトルです

夢のような出来事

校長 篠宮 敏明

潟東小学校校歌の3番の歌詞に「今も忘れぬ鎧潟」という一節があります。鎧潟は今から50年ほど前、1966年（昭和41年）に干拓が完了し、そして多くの人々の努力により、今では広大な美田に姿を変えています。

この学校だよりのタイトル脇にもある潟東小学校の校章には、「菱の葉」がデザインされています。15枚の葉は15集落を表し、「潟東」の文字を囲んで絆をつないでいます。

干拓前の「鎧潟」には「菱」が自生し、子どもたちもその実を採取し、シャキシヤキとした食感、栗のような味を楽しんだと聞きます。潟東地域、潟東小学校にとって「鎧潟」「菱」は、忘れられぬ思い出であり、心のよりどころであり、大切な宝物であるような気がします。

潟東小学校では4年生の社会科で、「鎧潟の干拓」について学んでいます。さらに、「菱」についても「総合的な学習の時間」などでカリキュラムに位置付けられるのではと考え、今年9月、ゆう学館にお願いし、潟東水生公園の菱を分けいただきました。株は学校前庭の池に移植し、成長を楽しみにしていましたが、残念ながら2回の台風の影響を受け、姿を消してしまいました。「来年こそは！」と特徴や育ち方を調べているところです。

その流れで、インターネットで「菱」を検索し調べていると、花言葉について述べたページを見つけました。菱の花言葉は「夢のような出来事」・・・その瞬間、在りし日の鎧潟で、兄弟姉妹や友達と菱の実を採取し食べている子どもたちの姿、昭和の光景が目には浮かびました。菱の実採りを経験したことのない私ですが、自分の幼少の頃の思い出が重なり、歳のせいもあるのか、涙が滲んできました。経験された皆様にとっては、まさに「夢のような出来事」であり、忘れられぬ思い出、心のよりどころ、大切な宝物なのだろうと拝察しています。

12月22日（土）から冬休みに入ります。クリスマス、大みそか、年越し、お正月等と、子どもたちにとって、そして私たち大人にとっても「夢のような出来事」が続くことでしょう。そして、冬休みは、冬休みのイベントは、家庭・地域が子どもたちを育む絶好の機会です。ご家族やご親戚・ご近所が集まる機会等でたくさん子どもたちや大人とかわり、そして折り合う中で、社会性・自律性を身に付けてほしいと願っています。忘れられぬ思い出、心のよりどころ、大切な宝物を育ててほしいと願っています。保護者の皆様、地域の皆様のご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

保護者の皆様、地域の皆様に支えていただき、おかげさまで平成30年を終えることができます。新たな年が、子どもたちにとっても、皆様にとっても、幸多い年になりますことを祈念申し上げ、今年最後の巻頭言といたします。よいお年をお迎えください。